

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

施設では内外の温度差が大きく、農作業中に体調を崩しやすいので御注意ください。

特に注意！（2月）バラ科果樹類：
クビアカツヤカミキリ

防除のポイント

- ◆ 被害が大きい樹は伐採し、破碎（チップの厚さは10mm以下を目安）または焼却する。すぐに処分できない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆う。
- ◆ 伐採後の切株もなるべく抜根し、破碎または焼却する。伐根できない場合は切株をビニルシートや肥料袋等で覆う。さらに根部まで全てネット（目合い4mm）で2重に覆い、内部の幼虫の羽化後の分散を防ぐ。
- ◆ 処分に伴い運搬する場合や焼却する場合は、市町村の指示に従う。（本文2ページ参照）。

特徴

- ◆ ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマが果実や葉を加害する。なお、ミカンキイロアザミウマの果実被害は、「水なす」で目立つ。

なす（施設栽培）：
アザミウマ類

防除のポイント

- ◆ 苗からの持ち込みによる発生に注意する。
- ◆ 発生が見られたら、アファーム乳剤、ファインセーブフロアブル、バストガード水溶剤等を散布する。
- ◆ 育苗期後半～定植当日にモベントフロアブル、プリロソソ粒剤オメガ等か、定植時にスタークル／アルバリン粒剤等を施用する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- ◆ 雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

たまねぎ：べと病



特徴

- ◆ 越年り病株として1～2月に病徴（葉が萎縮・黄化し、つやがなく、ねじ曲がり、硬くなる）を現し、周辺への伝染源になる。

防除のポイント

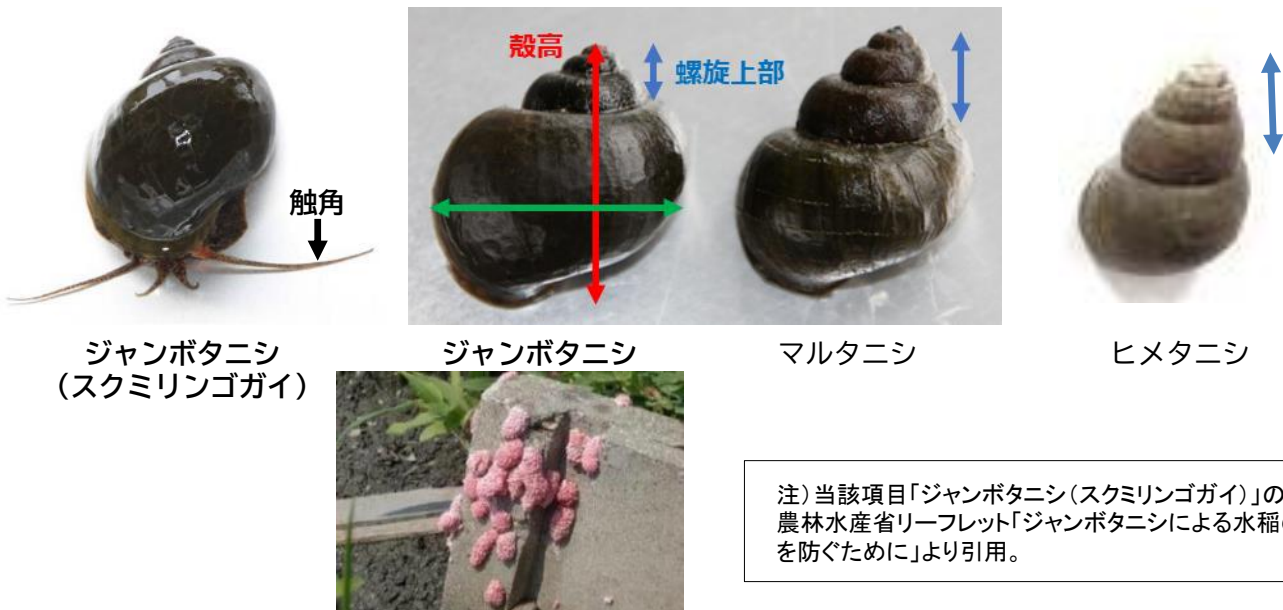
- ◆ 越年り病株は取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ ジマンダイセン／ペンコゼブ水和剤、ランマンフロアブル、ダコニール1000等を予防的に散布する。

次回の情報は2月下旬にお知らせします。

©「防除指針」<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>**※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。**

水稻（越冬対策）

ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）



注) 当該項目「ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)」の写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稻の被害を防ぐために」より引用。

特徴

- ◆ 成員の殻高は2～7cm程度。
- ◆ 他のタニシ類に比較して、螺旋上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じである（上部写真参考）。

防除のポイント

- ◆ 刈り取り後、耕うんして貝をひき潰したり、地表で寒気にさらし凍死させて、越冬貝を減らす。土中の浅いところ（6cm未満）に潜って越冬することが多いため、耕うんを浅くする。その際、トラクターの走行速度を遅く、ロータリーの回転を速くする。
- ◆ 耕うん機等の土に貝が付着することがあるので、ほ場間を移動する際はしっかり土を落とす。
- ◆ 本貝には人体に有害な寄生虫（広東住血線虫）がいる場合があるため、ゴム手袋やゴミ拾い用トング等を使用し、素手では扱わないようにする。もし、素手で触った場合には、石けんで手をよく洗う。

縞葉枯病（ヒメトビウンカ）



特徴

- ◆ 縞葉枯病は、ヒメトビウンカにより媒介されるウイルス病である。
- ◆ 発病したひこばえをヒメトビウンカが吸汁して、保毒する。

防除のポイント

- ◆ ウイルスに感染したひこばえは、本病の伝染源となる恐れがあるので、早めに刈り株をすきこみ、ひこばえを処分する。
- ◆ 冬～春期に畦畔の雑草を刈り取り、ヒメトビウンカの越冬密度を下げる。

果樹

ぶどう（加温栽培）

灰色かび病



灰色かび病の症状

特徴

- ◆ 多湿条件で発生が多くなる。
- ◆ 胞子が雨や風によって飛散し、傷口等から感染する。

防除のポイント

- ◆ 適切に換気を行い、湿度を下げるようにする。
- ◆ 第1回ジベレリン処理から結実始めの間にビニルでマルチングをする。
- ◆ 花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
- ◆ 開花直前または落花直後にゲッター水和剤、スイッチ顆粒水和剤、オンリーワンフロアブル等を散布する。

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等のサクラ属）

クビアカツヤカミキリ

処分に伴う運搬について

- ◆ 本種は特定外来生物に指定されており、伐採樹であっても、内部に幼虫が潜んでいる場合は運搬が制限される。このため、処分のための運搬であっても市町村の指示に従うこと。
- ◆ 市町村焼却施設（もしくは市町村の清掃工場）で焼却可能な場合は、伐採樹をネットで被覆する等の分散防止措置を実施の上、現地より運搬して焼却する。

野焼きについて

- ◆ 廃棄物の処理と清掃に関する法律第16条の2により、野焼きは原則として禁止されている。
- ◆ 一方で施行令第14条第4項において、「農業を営むためにやむを得ないものとして行われる廃棄物の焼却」については例外とされている。
- ◆ 例外に該当するかどうかは市町村によって異なるため必ず確認し、なるべく焼却施設にて焼却する。

●詳細は、技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」を参照
http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/kubiaka2112V2.pdf

トマト・ミニトマト（施設栽培）

すすかび病・葉かび病



特徴

- ◆ 樹勢が落ちると発生しやすい。
- ◆ すすかび病は近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、肉眼で見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

防除のポイント

- ◆ 多発すると防除が困難であるため、予防的散布が重要である。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、ダコニール1000、ベルコートフロアブル等を散布する。発生を認めたら、トリフミン水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤、アフエットフロアブル等を散布する。

灰色かび病



特徴

- ◆ 施設栽培で発生が多い。20℃程度の多湿時に発生が多く、花がらや果実のがくから発生することで、果実にも被害が生じる。

防除のポイント

- ◆ 発生が見込まれる時期に、ベルコートフロアブル、ダコニール1000等を散布する。発生を認めたら、ファンタジスタ顆粒水和剤、ロブラール水和剤等を散布する。

コナジラミ類（トマト黄化葉巻病）



特徴

- ◆ すず病を引き起こす他、タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV）の媒介や吸汁による果実の着色異常など様々な被害を引き起こす。

防除のポイント

- ◆ トマト黄化葉巻病は、定植後の早い時期に感染すると収量への影響が大きく、株ごと除去する以外に対策がないため、コナジラミ類の防除を徹底する。
- ◆ 施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
- ◆ ほ場周辺の雑草の除去を徹底する。
- ◆ グレーシア乳剤、コルト顆粒水和剤、トランスフォームフロアブル等を散布する。

あぶらな科野菜（キャベツ、こまつな、しろな等）

菌核病



キャベツでの発病

特徴

- ◆ 冬期、温暖多雨で発生が多くなる。
- ◆ 黒いネズミの糞のような菌核が土中に残って伝染源になる。

防除のポイント

- ◆ 発病株は取り除き、菌核を落とさないようほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 発生が予想される場合は、結球開始期からベンレート水和剤（キャベツ、はくさい）、ロブラール水和剤（キャベツ、はくさい）等を散布する。

たまねぎ

白色疫病



白色疫病発病株

特徴

- ◆ 2～3月が比較的温暖で雨が続くと発生しやすい。

防除のポイント

- ◆ 発生が見込まれる時期に、予防散布として、ランマンフロアブル、ジマンダイセン水和剤を散布する。
- ◆ 発生を認めたら、ザンプロDMフロアブル、プロポーズ顆粒水和剤、リドミルゴールドMZ等を散布する。